

11月例会は淡路島を舞台にした「種まく旅人～くにうみの郷～」

全国映連「奈良フェスティバル 2016」参加報告

例会のお知らせ

■名称／第 87 回例会『種まく旅人～くにうみの郷～』

■日時／11 月 15 日(火) ①PM 2:00-、②PM 4:20-、
③ PM 6:40-

■場所／加古川総合文化センター大会議室

(JR 東加古川駅から北へ徒歩 10 分、車は
加古川バイパス加古川東ランプ北へすぐ)

■受付／入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡してください。

入会手続きを行っていない方は、受付で 4 箇月分の会費(2000 円)を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受け取りください。

【例会作品データ】

■タイトル／種まく旅人～くにうみの郷～



■監督／篠原哲雄

■原作／田原和夫

■出演／栗山千明、

桐谷健太、三浦貴

大、谷村美月、音

月桂、重松収、根

岸季衣、山口いづ

み、永島敏行、豊

原功補

■データ／2014

年、日本、111 分、

ドラマ

■解説／今回の例

会は、「種まく人」

のシリーズ第 2 作、地元ひょうご淡路島の玉ねぎづくりをテーマとした「くにうみの郷」です。

故塩屋俊監督らが、日本の農業と地方の人と自然を描くシリーズ映画を企画した「種まく人」シリーズも、第 1 作の「みのりの茶」(大分県臼杵市)、第 2 作の「くにうみの郷」(兵庫県淡路島)、そして最新の第 3 作の「夢のつぎ木」(岡山県赤磐市)まで続いている。

2011 年 7 月に加古川シネマクラブ上映会「ふたたび swing me again」の記念講演会に来ていただいた塩屋監督は、「男はつらいよ」シリーズのような国民に愛されるようなシリーズを目指し、その第 2 作

目として、すでに淡路島を舞台の作品の準備を始めていたが、東日本大震災の復興のための福島県の「相馬野馬追」の映像制作のため中断していた。塩屋監督は 2013 年に急逝したが、作品は篠原哲雄監督らの手によって制作され、遺志が引き継がれている。

■ストーリー／物語の舞台は、国生みの郷、淡路島。

「頭でっちなお前は、もっと日本の第一次産業の現状を知らなければダメだ」ー

アメリカ帰りの農林水産省官僚神野恵子(じんのけいこ)は地域調査官として淡路島にやってきた。目的は日本の現状を知る事。

淡路島市役所に席をおきながら視察に赴く恵子を胡散臭さととまどいをもって受け入れていた。そんな中、玉ねぎ作りにいそしむ農業従事者、豊島岳志(とよしまたけし)、そしてその弟、海苔と共に生きる漁業者、豊島渉(とよしまわたる)に出会う。彼らは父の死をきっかけに何年も仲違いの態を続けていた。

二人との出会いをきっかけに恵子は少しずつ自らのミッションを切り開いていくが・・・

(公式ホームページから抜粋)

書写山口ケ見学

9 月末雨上がりの午後、原田真人監督「関ヶ原」(来秋公開予定)の書写山円教寺でのロケを見学させていただきました。役所公司さんが約 30m 先で演技なさってました!約 100 人というスタッフ(女性は 1 割くらいかな)の中で、私が興味深く目で追っていたのは、スプリクター(記録係)の女性でした。一昨年の映画大学で、スプリクターの先駆けだった白鳥あかねさんの話、本も読んで、とても、面白かったからです。やはり常に監督の側におられました。羨ましく見つめてました!

(せん)



円教寺での撮影のようす

全国映連「奈良フェスティバル2016」に参加して

全国映連学習交流集会「奈良フェスティバル2016」(9月24日～25日開催)に参加しました。24日、開会あいさつの後、映画上映から始まりました。作品は、池谷薫監督のドキュメンタリー「ルンタ」チベットが中国政府による弾圧に対し、非暴力で戦いを続ける人々の姿を浮き彫りにする。「ルンタ」2015年・111分)。一上映後、池谷監督の講演がありました。予備知識がなかったので、映画の中でわからない点が多くあったのですが、チベットの中国からの圧政の歴史や撮影の困難さ、チベットの現状等が話され、映画がより一層鮮やかによみがえってきました。映像として訴える物の大きさを感じました。

25日、全国の映画サークル・シネマクラブの会員が集まって、会の運営や会員状況の報告と話し合いがもたれました。どの地域も会員の高齢化と減少で困難を抱えていること、そんな中でも例会をより多くの人に知らせる工夫、楽しく運営していくことを心掛けていることなど創意工夫をしていることが報告されました。14団体49名の参加でした。(芳明)

フェスティバル1日目の夜、池谷監督を囲んで全国の仲間との交流会に参加しました。(和美)

前回例会の報告

9月14日の例会は、若い時から貧しく苦勞してきた70歳のおばあさんが、突然20歳に若返って、現代の若者と恋愛し、青春を謳歌する。そんな夢のようなお話のコメディ映画『怪しい彼女』を鑑賞しました。参加者からも、オモシロく楽しい映画であったと好評でした。参加会員85人参加。

明石シネマクラブ例会情報

■名称／『ニュー・シネマ・パラダイス』

(1989年、イタリア・フランス合作、124分)

(インターナショナルヴァージョン)

■日時／12月14日(水) ①PM2:00-、②PM4:30-、③PM7:00-

■場所／アスパピア明石9階子午線ホール(JR明石駅東徒歩5分)

■解説／映写技師アルフレードと少年との友情を描いた物語。

映画監督として成功をおさめたサルバトーレのもとに、老いたアルフレードの死の知らせが届く。彼

の脳裏に、“トト”と呼ばれた少年時代や多くの時間を過ごした「パラダイス座」、映写技師アルフレードとの友情が甦ってくる。シチリアの小さな村の映画館を舞台に、映画に魅せられたサルバトーレの少年から中年に至るまでの人生を3人の役者が演じる。アカデミー外国語映画賞やカンヌ映画祭審査員特別グランプリなど、各国で賞賛を浴びた。

■監督／ジュゼッペ・トルナトーレ

■音楽／エンニオ・モリコーネ

■出演／フィリップ・ノワレ、ジャック・ペラン、サルヴァトーレ・カシオ

■受付／会場受付で、①加古川の会員であることを証明するもの(氏名が記されている例会参加券が送られてきた封筒など)を提示し、②鑑賞希望であることを告げて、③受付簿にサインする

■目的／加古川シネマクラブと明石シネマクラブの交流事業として、映画鑑賞の機会を増やし新入会員を増やそうと、例会に相互参加できるようにしています。

■明石シネマクラブ TEL 090-3860-6662

例会参加券の送付手段変更のお知らせ

郵送料節約のため、9月から例会参加券などの送付を普通郵便からメール便のような特殊な取扱いのものにしています。個人名を記す信書の同封ができませんので、参加券の氏名を記入していません。参加券は会員各自で記名いただきますようお願いいたします。

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200～300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 078-935-8528

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

<http://homepage3.nifty.com/cinemaclub>

会員数132人(9月14日現在)

